



昭和62年10月9日
群馬県立 太田工業高等学校
同窓会
0276(45)4742

同窓会員の皆様へ

副会長 関 昌二

異常気象の続いた今年の夏もよ
うやく終わりを告げました。しか
し日本の経済は「円高」という嵐
が吹き荒れ、かってない苦しい立
場に各企業はたたされていきます。
そんな環境の中で、同窓会会員
の皆様方には、各方面で御活躍の
事と御推察申し上げます。

扱て、私達一期生が社会人への
スタートを切ってから誕生した若
者が、新入社員として仲間に入っ
てきています。属に言う「新人
類」です。旧人類になつた皆様
方は、新人類とうまくつきあつて
いますか。「企業は人なり」と
いいますが、私達中間層が「若者
達の力」をうまく引き出す事も、
企業の活性化の為に大変重要であ
る事は言うまでもない事です。
私は、新人類と毎日楽しく生活
をしています。と言いつつ切りたいの
ですが、世の中の多くの人達と同
様に、「新人類にとまどっている
一人です。しかし新人類達のあの

明るさは、私達が同年代の頃にあ
つたのでしょうか？

振り返るのが困難な年になつて
しまいました。これほどの「明
るさ」は持ち合わせていなかった
のは事実ですね。

ところで、私達が学び育つた母
校移転の話が進んでいます。

後輩達が伸び伸びと育つ為には、
又、情報化社会に対応する為にも
より広く環境の良い地に移転する
事も時の流れで止むを得ないので
しょう。今後の動きに注目した
いと思ひます。

又私達同窓会では今「会員名簿」
の発行を年末に控えて、諸々の準
備を進めている状態ですが、六千
名を越えた会員数ですので、私達
本部役員だけでは対応ができて
学校側にも大変な迷惑をかけてし
まう事にもなるので、専門業者の
手を借りる事にいたしました。
お互い身近にいながら、知らず
に生活していた仲間が、同窓生
と知る事で、より生活に潤いがで
れば幸いと考へます。
会員皆様の御健勝と御活躍を祈
念し、一言御挨拶といたします。

着任の挨拶

「太工の発展を願つて」

内田治太郎

この春の人事異動で、高工教頭
より太工校長を拝命し着任いたし
ました。もとより浅学非才であり
東毛地区とは疎遠でありましたが
太工の伝統を継承し、微力ではあ
りませんが大任を背負つてまいりま
すので、同窓生諸氏の今後のご協
力とご支援をよろしくお願い申し
あげます。

太工も歴史を重ねて二十五年、
この三月には、栗野校長先生はじ
め八人の先生方が退職、栄転され
ました。いずれの方々も、太工の
伝統を着実に築かれ、教育の底流
をしっかりと支えてこられた太工勤
続二十年以上の大ベテランであり
ます。これら太工発展の礎をつく
られた先達は、更に置きみやげと
して、太工の校舎全面移動計画を
当局にとりつけてくださいました。
工業生産北関東一を誇るこの地
で、太工が名実ともに一大変革し、
ますます伝統を飛躍させることを
願つての構想です。残された私達
にとつて、この大事業に心血を注
げますことは、難儀とは思ひます
が、とても光栄です。来春には、
新学科増設・定員増計画も実現す
る予定です。これらが完結したと

きには前工、高工につぐマンモス
工業高校として、地域社会に貢献
できることを信じております。

過日の常任幹事会で、同窓会名
簿出版について報告がありました。
同窓会発足二十二年、卒業生六
千余名の名簿発行にむけて、会長
はじめ役員、事務局の方々が、ご
苦勞なまわっていることを知りまし
た。同窓会の組織づくりと運営に
ついては、各学校でご苦心もある
ようです。本校のように、第一期
生が四十才前後で、新進気鋭な組
織だけに、その掌にあたる役員
の努力も大変だと思ひます。私は四
月以來、地元の行政・企業等の方
々にたくさんお会いしましたが、
太工卒業生の活躍ぶりを大きく評
価してくださる方々に感謝してま
いりました。「血は水より濃い」
と言ひますが、同窓会組織の良さは、
あと十年もすると、一層高ま
つてくると思ひます。

また、幹事会の席で、太工の今
昔を比較した提案もいただき早速
先生方に報告しました。母校に誇
りと愛着を感じてくれる卒業生を
送り出すことが、私共の使命であ
ることを痛感しております。今後
ともよろしくお願ひいたします。
諸氏のますますのご健勝を祈つ
て着任のご挨拶といたします。



退任の挨拶

栗野 昭

同窓会会員の皆様には益々ご健勝にてお過ごしのことと推察申し上げます。

さて私こと、去る三月末日をもちまして、三十八年間の教職を終わりました。

その三分の二に当る二十五年間太田工業高等学校に勤務することが出来ました。

この二十五年間とは太田工業高校創立の当初から現在までになります。この間同窓会会員の皆様には多くのご厚情とご支援を賜りました事を心より御礼申し上げます。

特に最後の二年間は校長という重責を担うことになりましたが、お陰さまで大過なくその職責を果たすことが出来ました。

そして太田工業高等学校に情報技術科の増設と校地、校舎の全面移転の方針を確定できましたことは大いに喜ばしい事と思っております。

しかし、その事によって、この度ご就任されました内田校長先生はじめ諸先生に多くの課題を残す結果となりいろいろご迷惑をおかけした事と思っております。

諸先生のご努力と、県当局のご好意により素晴らしい学校に発展

するものと信じています、会員の皆様には期待をもって見守って欲しいと思っております。

年年歳歳花相似たり
歳歳年年人同じからず

この句は皆様よくご存じの誌の一節であります。花は毎年同じように咲くけれども、それを眺める人は決して同じではない、という意味であろうと思えます。

私自身もこれからの幾星霜、同じように自然のうつろいを眺められるよう健康に留意して、じっくり考えて方針を立て、何か地域社会に役立つことが出来ればと考えています。

終わりになりましたが、会員の皆様の益々のご発展とご活躍を祈念申し上げます。

退職に際して

菊地貞雄

私は三十八年太田工業高校の開設二年目に奉職しました。途中十五から四年間伊勢崎工業高校に転任して五十九年本校に帰り本年退職しました。

この間皆様には大変な御世話になりましたこと、を厚く御礼申し上げます。長い間を振り返ってみますと世

相の影響にもよると思いますが学校も時代とともに変わったことをつくづく感じます。

特に本校の初期の様子が強く思い出されます。初代の島岡校長先生の質実で実力のある中堅技術者の養成と云うことを掲げられ、職員生徒が一致して既存の学校に追いつき追越せの雰囲気は満ちており、生徒の服装は、端正で華美に流れず、頭髪は短髪。何処でも責任ある行動をとる、と云うことで記名のある胸章を校内でつけたり、清掃は行き届き、落書きは皆無。外来者には会釈するマナーの良さ。朝礼は毎週月曜日に体育館で行われ校長の訓話がありました。授業中は私話しての注意は記憶にないほど。試験の結果は殆ど全員が相当良い成績であった、等が思い出されます。

就職では現在全国で最も恵まれている学校と云われていますが、当時は、オイルショックで大変な時代でした。職員は夏休みには手分けして、県内だけでなく京浜地区まで求人開拓に会社訪問しました。卒業生は関西地区まで就職し、地元より他に就職した人数の方がやや多かったです。

本校の初期の頃のみ記しましたがその後、それぞれの時期特長があつて今日まで変わって来たと思えますが、今や資本や技術の海外移転が進み、やがて新しい技術の勃興が言われているようです。そ

れらに対応して行かなければならない問題があるようです。今後とも本校は変わり続けることと思えます。各方面で活躍の卒業生の皆様、益々の健康と発展を期待申し上げます。

他事乍ら小生退職し、自由な身になりまして、不健康になるも、怠惰な日を送るも、自由には重い責任のあることを強く感じている日頃です。

第9回 工業祭

'87.10月24日(土)・25日(日)

Teen Age Dream

太田工業高等学校



同窓会役員名

(62年度)

役員	氏名	住所	勤務先	卒業別	郵便番号
会長	林進一郎	太田市下小林314-10	富士重工業	39年M	373
顧問	田治太郎	児玉郡上里町神保原2159-1	富学		373
副会長	原昌三	大泉町吉田2458-1	富士重工業	39年C	370-05
"	松原季二	館林市日向1017-2	アキレス	40年E	374
書記	小天ヶ山	桐生市境野町6-432-3	教頭		376
"	藤谷昭博	邑楽町石打1003	三洋電機	39年M	370-06
"	伊藤辰夫	太田市上小林99-3	学校側		373
會計	大野貞夫	邑楽町篠塚1885-5	武鉄	40年C	370-06
"	中野勇治	太田市台之郷1143	東武	39年E	373
"	広瀬政弘	太田市米沢280	学校側		373
會計監査	木村清一	勢多郡大胡町堀越541-15	事務		371-02
常任幹事	小島正常	大泉町吉田961-5D-11-2	三洋電機	46年C	370-05
"	小尾隆昭	太田市内ヶ島1312-5	伊工	"	373
"	小島隆昭	太田市藤阿久942-1	伊工	"	370-04
"	小関野	太田市台之郷1039-123	電々太田	39年M	373
"	境加藤	太田市矢田堀109-2	富電	"	E 373
"	加平橋	太田市新野1231	電々桐蔵	"	E 373
"	遠藤幸	太田市高林1816-15	三洋電	"	E 370-04
"	武藤大	大泉町仙石1225-1	自営	"	C 373
"	豊見松	太田市東長岡1110	自業	"	C 370-04
"	兒玉本	大泉町寄木戸1595-6	石原プラスチック	"	C 370-05
"	富岡今	新田町木崎1255-16	富士重工業	40年M	370-07
"	福阿久	千代田町下中森166	富士重工業	"	E 373
"	中町怒野	太田市新島町359-7	富士重工業	41年M	373
"	野中石岡	太田市東矢島1231	富士重工業	41年M	373
"	青須内小	太田市台之郷821-2	自営	"	C 373
"	須内小	太田市鶴生田683-3	三洋電機	"	E 373
"	大野竹	太田市飯塚町787	富士重工業	"	E 373
"		太田市小舞木町440	三洋電機	42年M	373
"		太田市岩瀬川26	太田市農協	"	E 373
"		太田市鶴生田655	太田市役所	"	C 373
"		太田市細谷1151	荻原鉄工所	43年M	373
"		太田市東矢島549	三洋電機	"	E 373
"		太田市植木野113	栄編家	"	C 373
"		足利市南大町424-5	自業	" (定)	326
"		太田市高林1808	三菱電機	44年M	373
"		太田市東本町26-29	自業	"	E 373
"		太田市沖之郷498	大隅樹	"	C 373
"			自業	" (定)	373
"		太田市熊野町31-1-406	富士重工業	45年M	373
"		太田市只上150	三洋電機	"	E 370-05
"		大泉町上小泉2324	自業	" (定)	373
"		太田市小舞木町503	三洋電機	"	E 373
"		大里郡妻沼町小島2362-5	荻原成器	47年M	360-02
"		太田市内ヶ島1441-2	三菱電機	"	E 373
"		太田市東本町18-25	自営	47年C	373
"			大金	" (定)	374

同窓会役員名

(62年度)

役員	氏名	住所	勤務先	卒業別	郵便番号
常任幹事	塩田英夫	邑楽郡板倉町板倉1775	板倉農協	48年M	374-01
"	高橋一三	太田市菅塩909	富士重工業	" E	373-01
"	五十嵐一二	太田市宝町778	太田市役所	" C	370-04
"	斎川竹男	新田郡笠懸村阿左見1863-2	富士重工業	" (定)	376
"	高山慶造	太田市東長岡1579	富士重工業	49年M	373
"	大田貴井	太田市内ヶ島1533	富士重工業	" E	373
"	角田鉄男	太田市大島749	太田市役所	" C	"
"	川島秀之	太田市竜舞4462	萩原鉄工	" (定)	"
"	野村幸利	大泉町寄木戸531-6		50年M	373
"	須永宏	足利市福居町1103-3		" E	370-05
"	相川実博	太田市上鳥山1381-18	足利南農協	" C	326-03
"	大須賀正	太田市内ヶ島229	富士重工業	" (定)	373
"	沢口英雄	太田市内ヶ島229	自営	51年M	373
"	岡部浅治	太田市熊野30-35	沢藤電機	" E	373
"	川島仁志	太田市強戸454-5	大隅樹脂	" C	373-01
"	原堀隆	千代田町舞木765-1	三洋電機	" (定)	370-05
"	内田昌	太田市東長岡417-1	富士重工業	52年M	373
"	高橋明裕	太田市東長岡1155	日本電子機器	" E	373
"	柿沼浩人	新田町市野井1998-1	富士重工業	" C	373-01
"	金原真英	太田市新井町222	三愛工業	" (定)	373
"	新飯塚和浩	千代田町福島589-1	三洋電機	53年M	370-05
"	小野村林和	館林市赤生田660	日本コイル	" E	374
"	小川明早	太田市浜町36-22	富士重工業	" C	373
"	堀本晴浩	太田市吉沢1700	飯塚製作所	" (定)	373
"	有下橋秀樹	太田市熊野町22-3	三洋電機	54年M	373
"	佐中星	太田市東矢島1001	荻原鉄工	" E	373
"	中星	太田市藤阿久915	三洋電機	" C	370-04
"	飯田佳久	太田市東本町9-1	三角張会	" (定)	373
"	今泉勝仁	太田市鳥山1516	新瀉鉄工	55年M	373
"	梅澤善章	横滨市緑区長津田NEC寮	NECエンジニアリング	" E	"
"	竹之内利幸	大泉町寄木戸1375-1	三洋電機	" C	370-05
"	原島生口	太田市竜舞4470-4	三洋電機	" (定)	373
"	船生口川本	太田市牛沢142-2		56年M	373
"	大橋本澤	太田市竜舞3951-1	東京田辺製菓	" E	373
"		太田市台之郷1645-8	サントリ	" C	373
"		大泉町吉田2433	富士重工業	57年M	370-05
"		尾島町安養寺208-9	足工大	" E	370-04
"		太田市内ヶ島612	自営	" C	373
"		太田市高林1676	富士重工業	58年M	373
"		太田市東金井102	富士重工業	" E	373
"		太田市東今泉342-2	進学	" C	373
"		大泉町上小泉882-5	ヤマト発動機	59年M	373
"		太田市富若496-2	群馬NEC	" E	373
"		太田市東長岡407-1	自営	" C	373
"		邑楽町中野2839-5	富士重工業	60年M	373-06
"		太田市東長岡1270	三洋電機	" E	373
"		新田町村田1212	大阪酸	" C	373-01
"		新田町木崎1444-4	三ツ葉電	61年M	370-03
"		館林市尾曳町17-45	東京電力	" E	374
"		大泉町上小泉1414-1	大隅樹脂	" C	370-05

「学科新設・学校
全面移転で
生まれ変わる母校」

小林季一

「新しい科ができるそうで」「学
校も全面移転ですか」等、校外の
方に出会うとしばしばこんな話題
になります。新聞報道が先行して
話題が提供されたので仕方ないこ
とと思います。同窓諸氏にあって
は、遅きに過ぎるとのお声もある
でしょうが、ここに今までの経緯
をお伝えしてご勘弁いただきたい
と思います。

本校は、昭和三十七年四月開校以
来、設備学科・学級数の変更なく
三学科・一学年六学級編成でき
ておりますが、時代や周囲の様子
は当時と大きな変わりようであり
ます。開校当初は太田市の市政に
合った工業高校だったでしょうが
今は違ってきました。工業化の発
展、企業の発展にめざましいもの
があつて、人口増加率・人材需要
の多さなど他都市をはるかに越え
た「わが太田市」に変容しており
ます。当然ながら、本校もその受
皿の質と量に応えられなくなつて
まいりました。

新しい学科は、時代・産業界の
要請を受けとめ、更には県内工業
高校の学科分布状況等から検討し
「情報技術科」ということになつ
ております。情報技術科の新設に
より、コンピュータ等の情報技術
関係機器導入と関係教師の流入が
既設三学科(機・電・工化)の教
育課程改編や実習内容捨捨選択と
あいまつて、有効に協働、共用さ
れれば、名実ともに「わが太田市」
の市勢に合った、時代の要請に応
えられる太田工業高校に生まれ変
わるることができます。乞うご協力。

このように状況と、折しも中学
卒業見込数の急増期を迎えたこ
とによる県教育委員会の「学級増
による高校の収容力拡大施設」が
合致し、その施策最終年次(来年
三月)に本校の一学科・一学年二
学級増が認められたわけでありま
す。



昭和61年度卒業生(第23回)

就職事業所

会社名					会社名					会社名						
M	E	C	計		M	E	C	計		M	E	C	計			
(太田・新田)					サニーダクロ					三ツ葉電気製作所						
富士重工業	5	3	5	13	小計	27	20	29	76	日本電気機器	2	2	2	4	5	
教員研究所	3	1	4	6	(館林・邑楽)					伊勢崎電子	1	1	1	2	1	
群馬日本電気	2	1	1	2	凸版印刷	1			2	平和工業	1	1	1	2	1	
三菱モーター	1	1	1	2	凸版印刷				1	沖電線				1	1	
三井物産	1	1	1	2	タマポリ				1	諏訪工業				1	1	
日本発条工業	1	1	1	2	宮津製作所	1			2	建設小計	1	4	7	4	15	
大隅油脂工業	1	1	1	3	宮津防触				1	(東京)						
石原プラスチック	1	1	1	3	三洋電気				2	長谷川香料				1	1	
東亜工業	1	1	1	3	日東電気	1	1	2	2	東武鉄道保安協会				1	1	
三和工業	1	1	1	3	富士通	1	1	2	3	関東電気				1	1	
仲川シャッター	1	1	1	3	日本ラジエーター	1	1	1	2	鈴木電気				1	1	
富士テクニカルサービス	1	1	1	3	日清紡績	1	1	1	3	小計	1	2	1	1	4	
第一鐵道	1	1	1	3	オリオン精工	1	1	1	3	(埼玉)						
群馬東信電気	1	1	1	3	北海製缶	1	1	1	3	日本ディーゼル工業	1	1	1	1	1	
明舎工業	1	1	1	3	雪印乳業	1	1	1	3	アトム科学塗料				1	1	
しげ工業	1	1	1	3	新日本ガラス	1	1	1	3	曙ブレーキ工業				1	1	
日東システム開発	1	1	1	3	三吉電気	1	1	1	3	東京化成工業				1	1	
富士エンジニアリング	1	1	1	3	正田醤油	1	1	1	3	大忠電子				1	1	
ヤマハメタル	2	1	1	2	日本キャンパック				2	小計	1	2	1	2	5	
鈴木楽器	2	1	1	2	春田電子	1	1	1	3	(栃木)						
坂東商事	2	1	1	2	平安運輸	1	1	1	3	バンドー化学				1	1	
寿きセンター	2	1	1	2	五十鈴鋼材	1	1	1	3	足利松下電工				1	1	
赤城食品	1	1	1	2	橋本フォーミング	1	1	1	3	小計	0	1	1	1	2	
フーズセンター	1	1	1	2	小計	11	8	31	(千葉・茨城)							
出雲セメント	1	1	1	2	東京電力	1	1	1	3	宮腰機械				1	1	
盟産業	1	1	1	2	群馬リコー	1	1	1	3	積水化成工業				1	1	
フランベット	1	1	1	2	白十字	1	1	1	3	小計	1	0	1	1	2	
関西農産物	1	1	1	2	藤田サービス	1	1	1	3	(神奈川)						
太田消防署	1	1	1	2	トヨタカローラ群馬	1	1	1	3	富士通				2	2	
岡田工業	1	1	1	2	東日印刷	1	1	1	3	日産サニー				1	1	
清水工業	1	1	1	2	自衛隊	1	1	1	3	小計	0	3	0	0	3	
矢島工業	1	1	1	2	小計	1	2	5	0	1	7					
美電	1	1	1	2	(伊勢崎・桐生)					合計	48	51	46	145		
					東洋アルミニウム	1	1	1	3							

昭和六十一年度
卒業生の進路

進路		希望者				決定者				未定数			
		M	E	C	計	M	E	C	計	M	E	C	計
進学	大学	7	12	3	22	6	11	3	20	1	1	0	2
	短大・高専	3	1	1	5	3	1	1	5	0	0	0	0
	各種・専修	14	12	21	47	13	12	20	45	1	0	1	2
就職	学校幹旋	50	51	45	146	50	51	45	146	0	0	0	0
	その他	1	2	4	7	1	2	4	7	0	0	0	0
計		75	78	74	227	73	77	73	223	2	1	1	4

同窓会会員数

S62年3月2日現在

卒業回数	卒業年月日	合計
1	昭40.3.12	302
2	41.3.9	315
3	42.3.9	306
4	43.3.9	303
5	44.3.6	322
6	45.3.6	321
7	46.3.5	319
8	47.3.1	311
9	48.3.1	306
10	49.3.1	289
11	50.3.1	273
12	51.3.1	257
13	52.3.1	261
14	53.3.1	260
15	54.3.1	245
16	55.3.1	227
17	56.3.1	241
18	57.3.1	228
19	58.3.1	222
20	59.3.1	235
21	60.3.1	229
22	61.3.1	230
23	62.3.2	227
合計		6229

地域別の就職者

地域	就職者数				地域	就職者数					
	M	E	C	計		M	E	C	計		
県内	太田	24	19	27	70	県外	東京	1	2	2	5
	新田	5	1	2	8		栃木	1	1	0	2
	尾島	0	1	1	2		埼玉	2	1	2	5
	大泉	4	5	6	15		茨城	0	0	1	1
	館林	3	5	3	11		愛知	0	0	0	0
	邑楽	4	3	0	7		神奈川	0	3	0	3
	桐生	2	3	0	5		千葉	1	0	0	1
	伊勢崎	3	4	5	12		小計	5	7	5	17
	前橋	1	4	0	5						
高崎	0	1	0	1							
小計	46	46	44	136	総計	51	53	49	153		

学校だより

職員異動 昭和六十二年四月
茂木正高先生 (工化) 高工高(定)教頭
小淵輝明先生 (国語) 大泉高
斎藤昭七先生 (数学) 館林商工
増田守男先生 (数学) 太商(定)
石坂哲男先生 (事務) 近代美術館
次の先生方は新任の先生です。
内田治太郎校長 高工より
設楽博実先生 (数学) 前東商より
斎藤正之先生 (国語) 桐女より
松永政雄先生 (工化) 桐女より
猪熊浩二先生 (電気) 桐女より
今成昭先生 (事務) 館高より
中野勇治先生 (機械) 新任
尾池武先生 (機械) 新任
堀越治美先生 (電気) 新任
新井博先生 (機械) 新任
堀嘉広先生 (数学) 新任

編集後記

大変遅くなりましたが、皆様方の御協力により、会報十七号を発刊することができました。投稿を頂いた、諸先生方をはじめとして、皆様に紙面を借りまして厚く御礼申し上げます。また、今回始めて、同窓会役員名と住所をのせましたので、会員の皆様の参考にして頂ければ幸いです。(林記)

池谷正雄先生 (工化) 非常勤
山岸徳三郎先生 (電気) 非常勤
次の先生方が退職されました。
栗野昭校長 退職
毛呂実先生 (機械) 退職
茂木英一先生 (機械) 退職
菊地貞雄先生 (機械) 退職
新井磯男先生 (電気) 退職
吉田久男先生 (電気) 退職
空井良英先生 (工化) 退職

